

月刊 サンエスウオッチング Vol.14

「OnebyESU カーボンフロントフォーク 開発の変遷」

第 2 章 調和から多様性への発展

< オフセットの基本に立ち返った 20 年の変遷 >

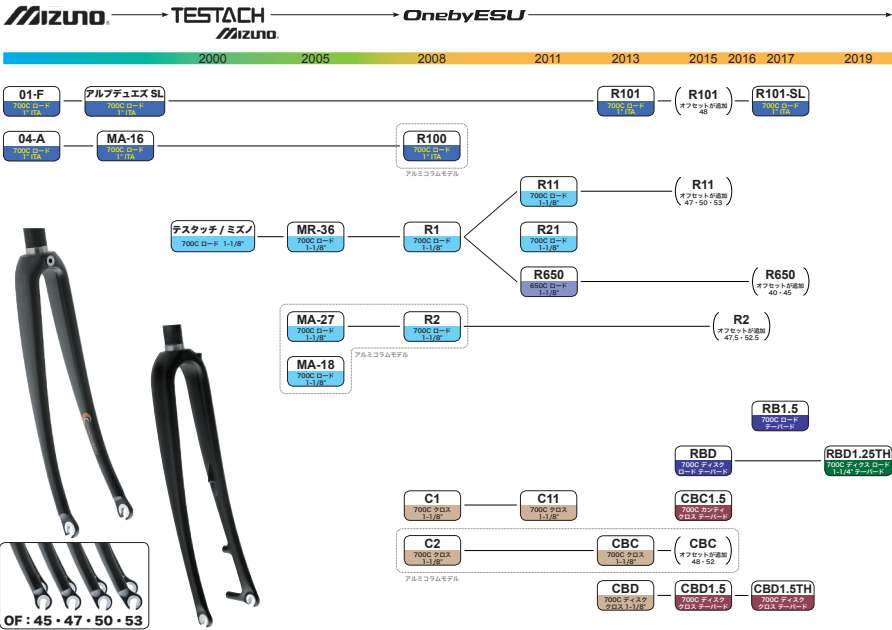


1996 年に発表した (左写真) 「TOYO LEGEND PRESTIGE」。8 サイズのフレームに 3 サイズのオフセットを設定。当時のスチールフレームではフレームサイズに対して操縦に最適なオフセットを持つフォークと組み合わせるのが極々当たり前でした。

しかし後のカーボン化によって、型を多数作るというリスクから多くのメーカーはオフセット 1 サイズ展開となっていました。つまりライダー自身が順応しなければなりませんでした。ワンバイエスでは 2015 年頃から特にロード系フォークに於いて多くのモデルに多数のオフセットを設ける取り組みを行い、フレームに対して最適なトレイル値 (月刊サンエスウオッチング Vol.3 参照) を選んでいただけるように努めています。

ミズノから始まったカーボンフォークはテストタッチからワンバイエスへと継承され、現在ロード系 9 モデル、シクロクロス系 6 モデルを用途に合わせてラインナップするに至っています。

【ミズノ〜テストタッチ〜ワンバイエス カーボンフォーク樹形図】

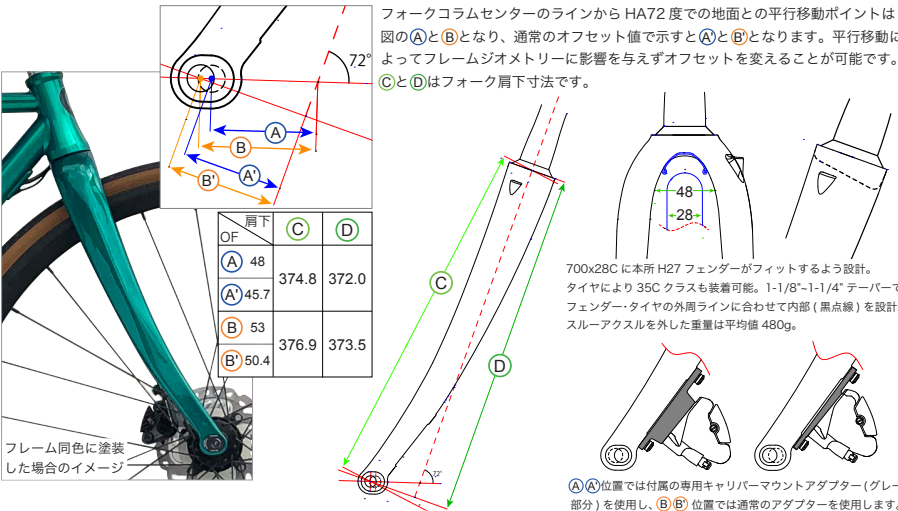


写真左) ロードの基本モデル「OBS-R11」は 4 つのオフセットをラインナップする
写真右) 初のディスク仕様となった「OBS-CBD」はロード並みにシャープな形状の CX モデル

< 多様性を備えた最新の「OBS-RBD1.25TH」 >

最新の機構 (テーパ・スルー・ディスク・VDS 振動減衰) を盛り込んだ上に、1 つのフォークで 2 つのオフセットを簡単に選択できないか・・・とのテーマで開発したロード系モデルです。

新機構「デュアルオフセット (可変式)」は敢えてヘッド角 (HA) を 72 度と仮定した上で、簡単なパーツの付け替えにより、前輪の軸を地面と平行に前後約 5mm 変換できるよう設計しています。これによって同じ外径の車輪であればハンドル高を変化させずにオフセットを変えることが可能となっています。つまり HA72 度であればオフセットを変換しても前輪までの前後距離以外、フレームのジオメトリは変わりません。ワンバイエスカーボンフォークの新たな「顔」となるモデルとなりました。



< 2020 年後半に発売予定モデル >

「デュアルオフセット」採用のオンロード系とグラベル系のディスク・スルー・VDS フォークを発売予定です。右図の①は 700C モデル②は 650B のモデルで共に 1-1/8" ストレートコラムを採用したオンロード系です。グラベル系の③は 400mm 近くの肩下でタイヤクリアランス 57mm の 1-1/8"-1-1/2" テーパーモデル。フェンダーや各種ダボを設定しています。いずれのモデルも 2 つのオフセットを選択できるデュアルオフセットを採用したベンドスタイルです。

ワンバイエスでは、これからも快適に心地よく調和するフォークを開発していきます。

